

紹介医の皆様へ



自治医科大学附属病院移植外科

2022年2月

紹介医の皆様へ

平素より自治医科大学に患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

自治医科大学では2001年5月より肝移植を開始し、2021年12月までに326例の小児生体肝移植(分割ドミノ肝移植1例含む)と5例の小児脳死分割肝移植、32例の成人生体肝移植を行ってきました。また、先天性門脈体循環シャント(先天性門脈欠損症含む)12例に対しては、生体肝移植を5例、シャント閉鎖を5例、経過観察を2例に行っております。

肝移植の適応評価に関しては、急性肝不全や代謝性疾患は消化器・肝臓内科グループや集中治療部と密に連携を取りながら診療を進めており、様々な疾患に対応できる体制が整っております。肝移植の周術期管理においては、移植外科医のみならず、移植コーディネーター、薬剤師、感染制御部、腎臓内科医、精神科医と日々カンファレンスを行っており、専門性の高い診療を行っております。血管・胆管合併症においては経験豊富な放射線科医と消化器内科医(胆道合併症に対する小腸鏡下治療は本邦最多の症例数)がおり、迅速かつ適切に治療を行う体制が整っております。

当施設は2017年1月より成人肝移植プログラムを開始しており、また生体ドナーに関しては、適応評価、手術、術後管理から永続的な外来管理まで当施設が責任を持って行っています。

このように自治医科大学附属病院は移植医療や成人肝疾患に対する医療という点において、日本有数の施設であると自負しております。さらに、長期滞在用の施設(構内住宅)もありますので、遠方の患者様においても受け入れの体制が整っています。これからも皆様からご紹介頂いた大切な患者様を元気にできるように日々精進していきたいと思っております。

今回は患者様を紹介して頂くにあたり、これまでの当院のデータや具体的な紹介方法に関して提示させて頂きました(詳しくは当科ホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/transplant/index.html>)を参照してください)。患者様への説明の際に参考にして頂ければと思います。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

2022年2月

自治医科大学附属病院移植外科科長 佐久間康成
成人肝移植責任者 大西康晴
小児肝移植責任者 眞田幸弘

自治医科大学消化器一般移植外科の歴史

2001年4月、「小児外科・移植外科」設立

2001年5月、小児生体部分肝移植開始

2004年1月、「移植外科」独立

2007年2月、生体部分肝移植100例目実施

2008年4月、レシピエント移植コーディネーター専任

2008年10月、新生児に対する生体部分肝移植実施

2010年8月、脳死肝移植施設(18才未満)認定

2011年5月、生体部分肝移植200例目実施

2014年3月、小児脳死分割肝移植実施

2014年6月、小児生体ドミノ肝移植実施

2016年1月、生体ドナー手術・管理移行(消化器・一般外科より)

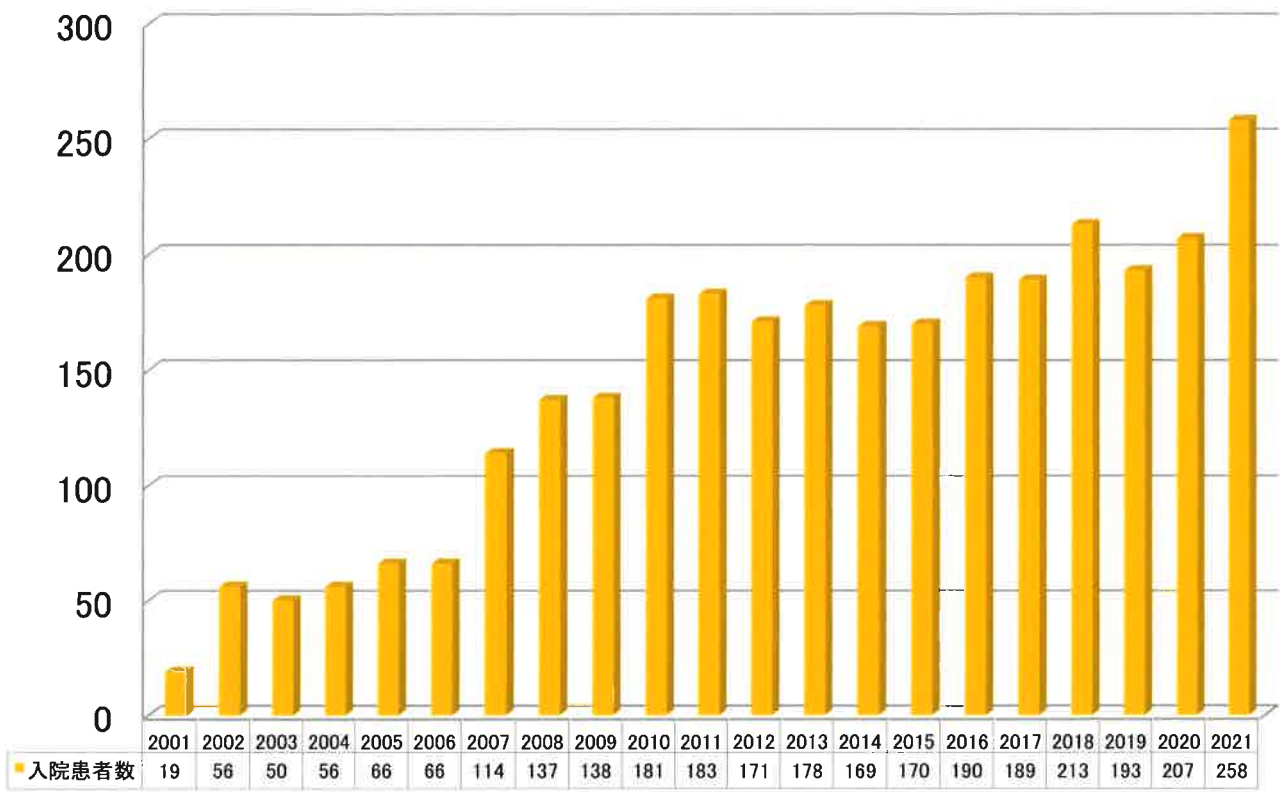
2017年1月、成人生体部分肝移植開始

2017年10月、生体部分肝移植300例目実施

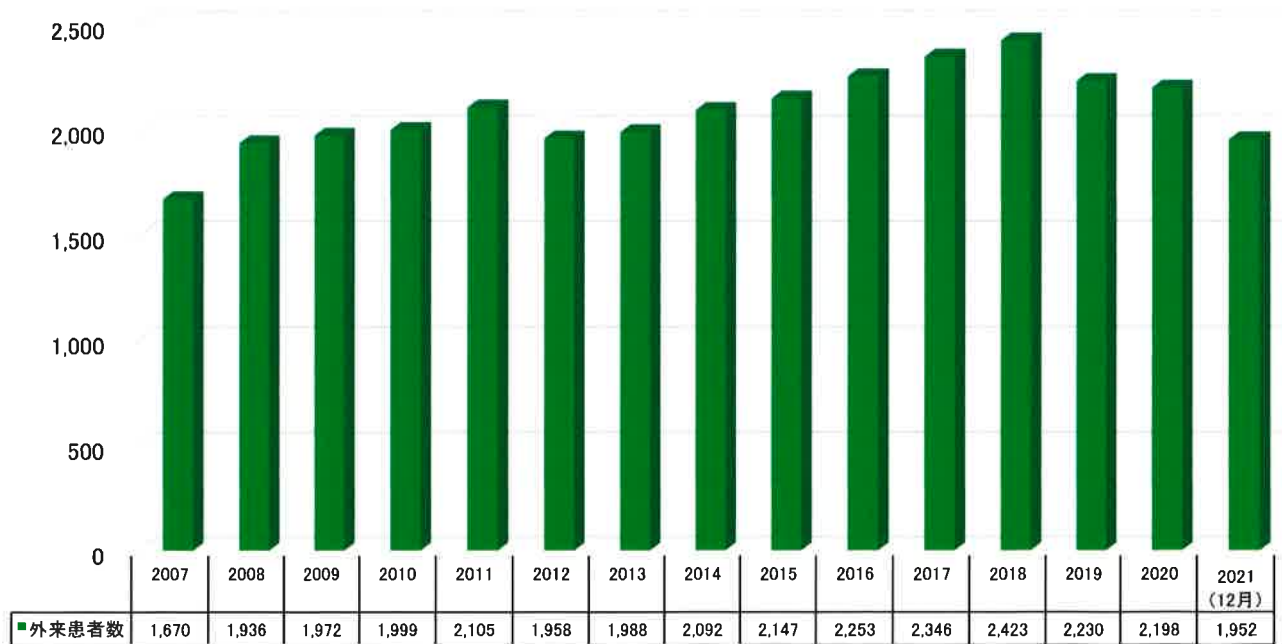
2019年4月～「消化器一般移植外科」設立

診療実績(成人肝移植症例含む)

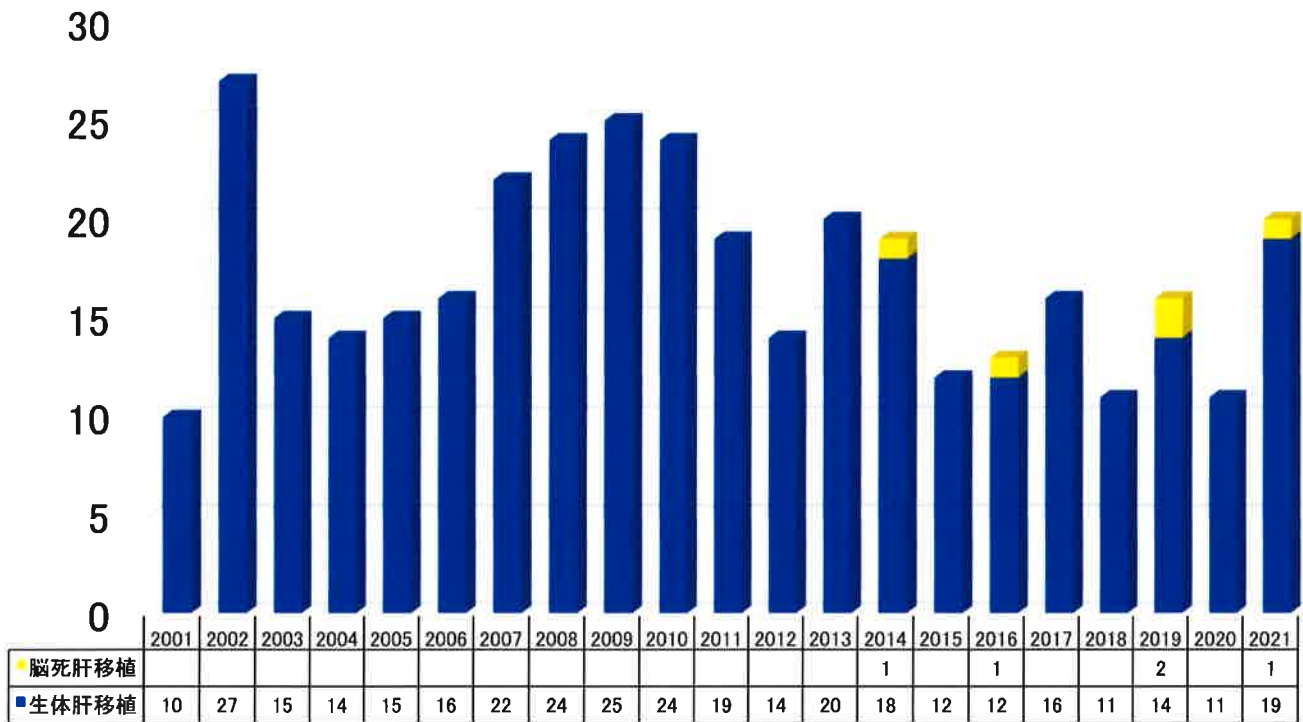
① 入院患者数(1-12月集計:2001-2021年)



外来患者数(4-3月集計:2007-2021年度)



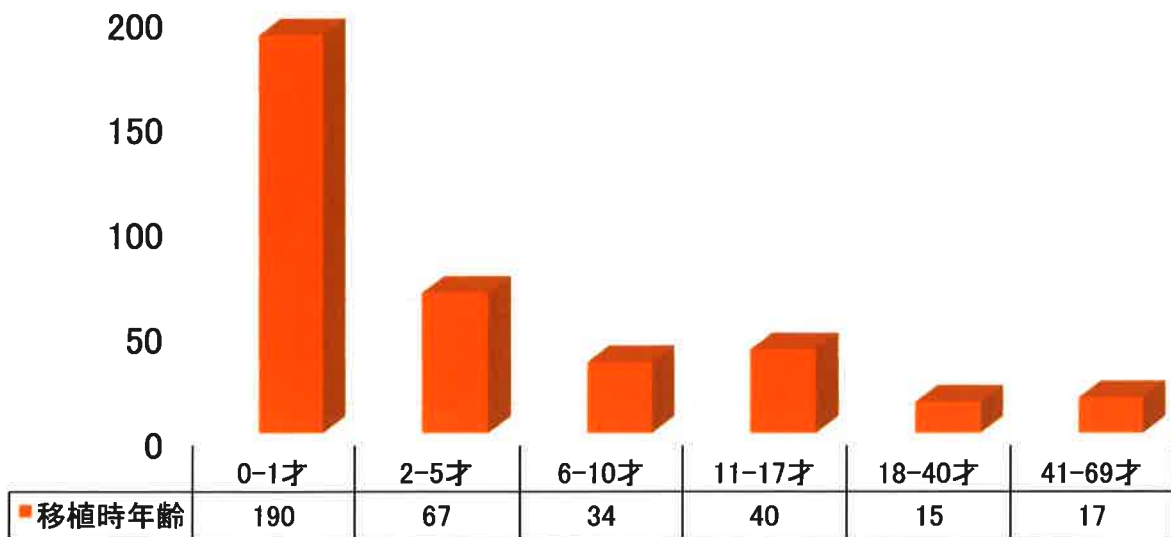
② 肝移植件数(1-12月集計:2001-2021年)



【原疾患(363例)】

胆汁うっ滞性疾患 261例	急性肝不全 8例
胆道閉鎖症 236例	劇症肝炎(原因不明) 6例
アラジール症候群 14例	若年性関節リウマチ 1例
原発性硬化性胆管炎 4例	急性巨核芽球性白血病 1例
原発性胆汁性胆管炎 4例	
進行性家族性肝内胆汁うっ滞症 2例	代謝性疾患 47例
腸管不全合併肝障害 1例	オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症 23例
	ウィルソン病 6例
肝細胞性疾患 14例	新生児ヘモクロマトーシス 5例
非アルコール性脂肪肝炎 6例(肝細胞癌 2例)	メープルシロップ尿症 4例
C型肝炎 3例(肝細胞癌 2例)	メチルマロン酸血症 3例
自己免疫性肝炎 3例	シトルリン血症 2例
アルコール性肝炎 2例	嚢胞性線維症 1例
	カルバミルリンサン合成酵素欠損症 1例
血管性疾患 5例	ニーマンピック病C型 1例
先天性門脈体循環シャント 5例	糖原病Ia型 1例
腫瘍性疾患 7例	その他 21例
肝芽腫 5例	グラフト不全 18例
肝血管内皮腫 1例	先天性肝線維症 2例
肝紫斑病 1例	重症複合免疫不全症 1例

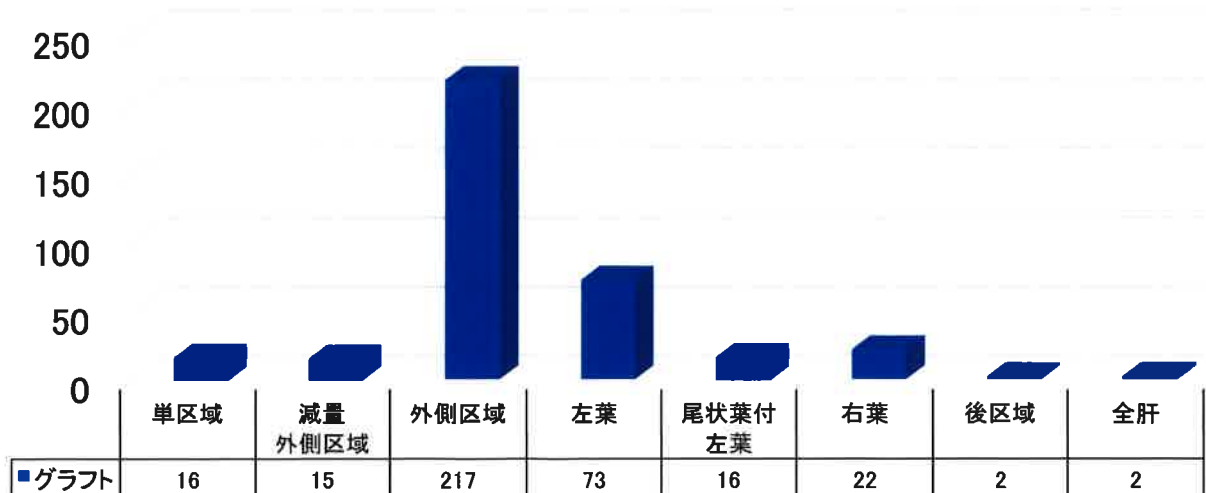
移植時レシピエント年齢



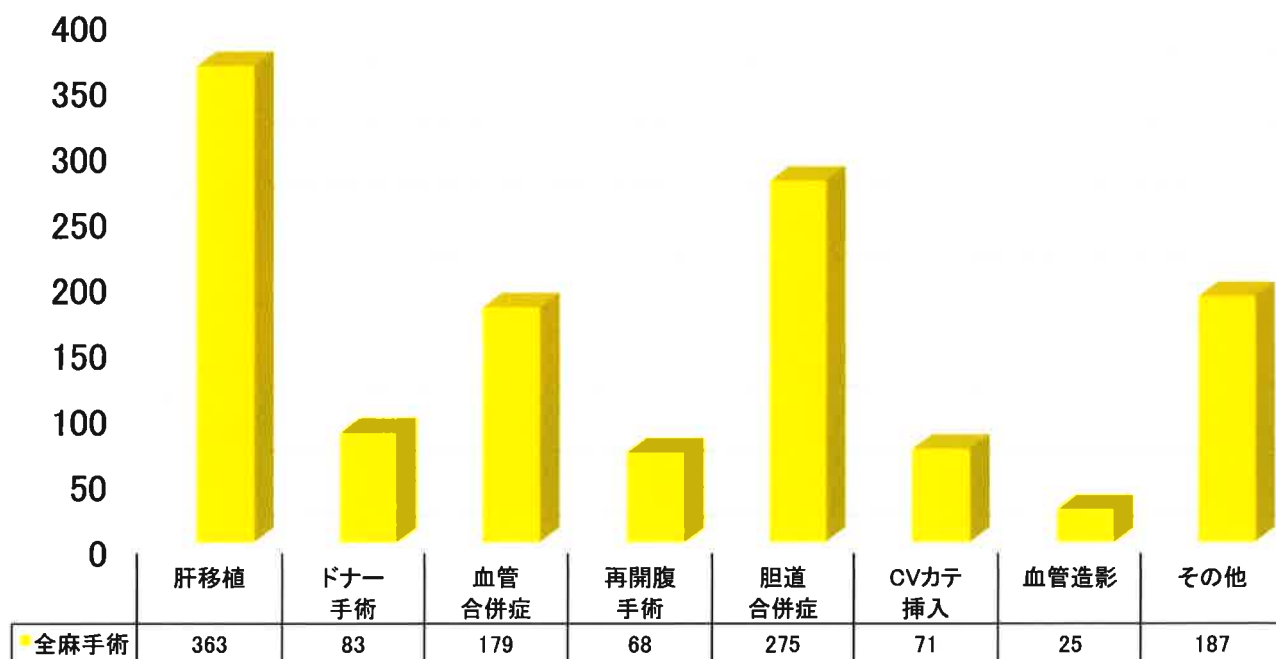
ドナー関係



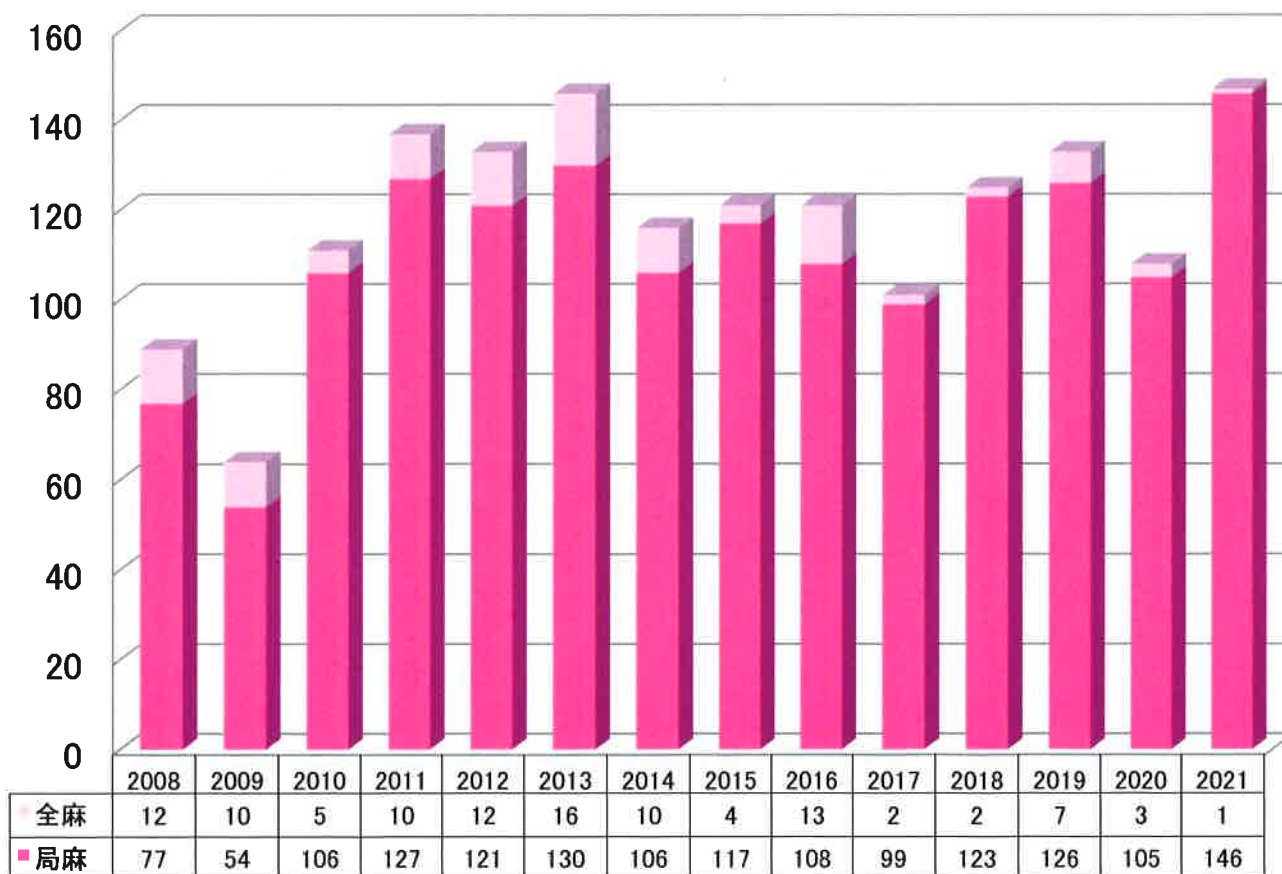
グラフト



全身麻酔手術件数(1-12月集計:2001-2021年)

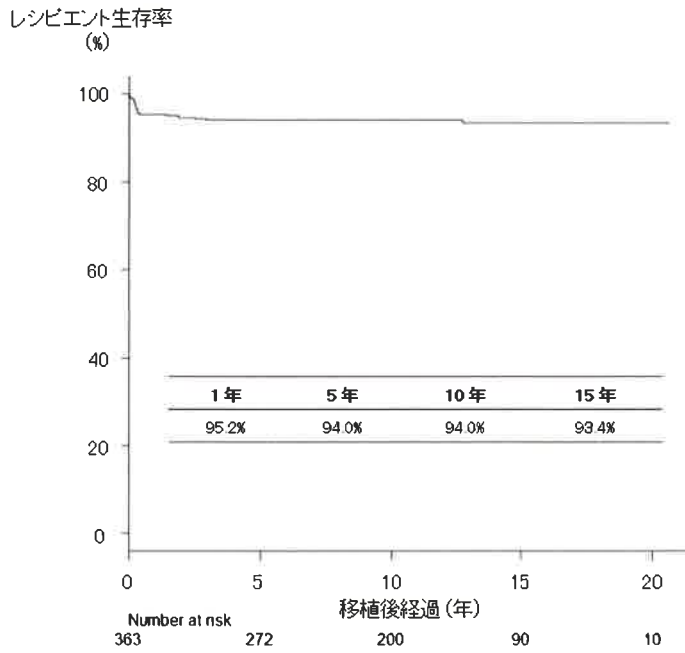


肝生検件数(1-12月集計:2008-2021年)

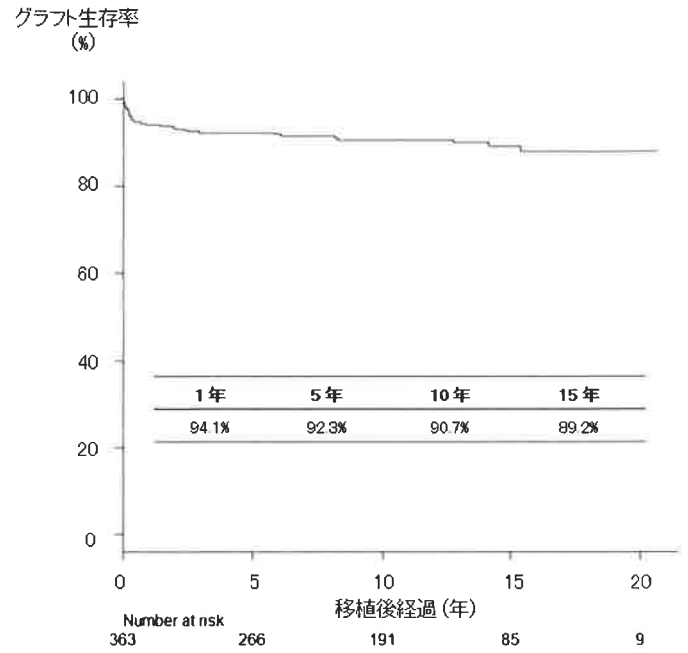


③ 肝移植成績(レシピエント・グラフト生存率:2001-2021年)

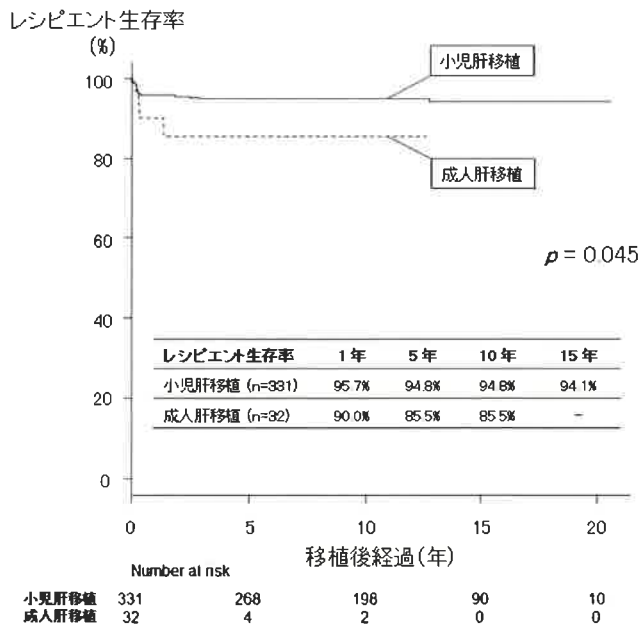
レシピエント生存率(n=363)



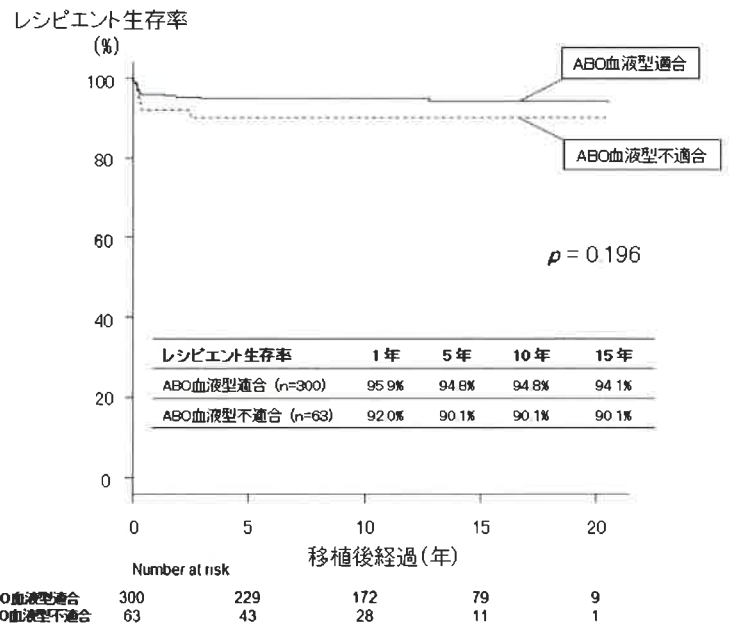
グラフト生存率(n=363)



年齢別肝移植成績

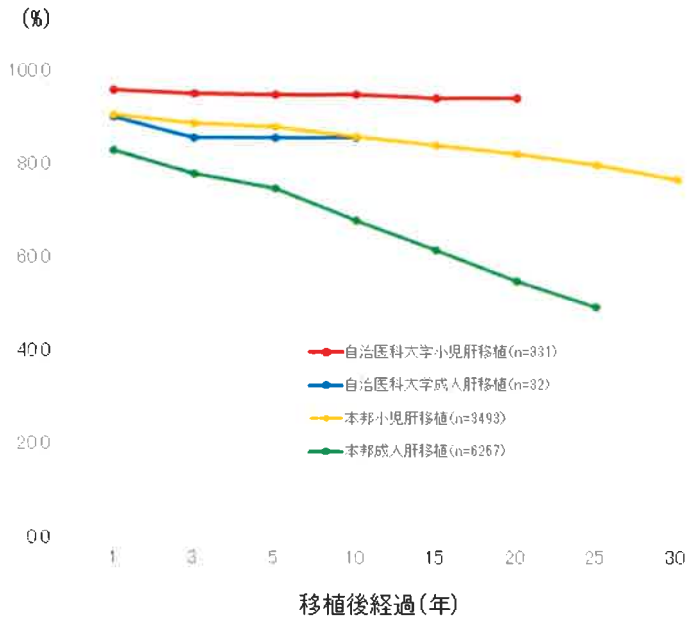


血液型タイプ別肝移植成績



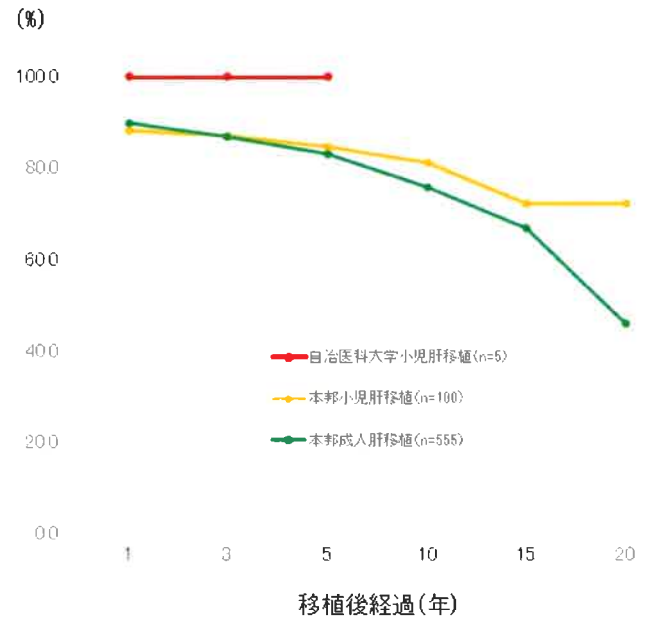
* 本邦(1964-2021年)における肝移植成績との比較

生体肝移植



レシピエント生存率	1年	3年	5年	10年	15年	20年	25年	30年
自治医大小児(n=331)	95.7%	95.0%	94.7%	94.7%	94.0%	94.0%	-	-
自治医大成人(n=32)	90.0%	85.5%	85.5%	85.5%	-	-	-	-
本邦小児(n=3493)	90.4%	89.6%	87.7%	85.6%	83.8%	81.9%	79.7%	76.4%
本邦成人(n=6267)	82.8%	77.7%	74.4%	67.6%	61.3%	54.7%	49.1%	-

脳死肝移植



レシピエント生存率	1年	3年	5年	10年	15年	20年
自治医大小児(n=5)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	-
自治医大成人(n=32)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	-
本邦小児(n=100)	88.0%	86.9%	84.7%	81.0%	72.0%	72.0%
本邦成人(n=555)	89.6%	86.8%	83.0%	75.6%	66.6%	45.7%

*** 外科的合併症(2001-2021年)**

外科的合併症	全体(n=363)	小児生体(n=326)	小児脳死(n=5)	成人生体(n=32)
血管・胆管合併症				
肝静脈合併症	30(8.3%)	25(6.9%)	2(40.0%)	3(9.4%)
門脈合併症	54(14.9%)	50(15.3%)	2(40.0%)	2(6.3%)
肝動脈合併症	21(5.8%)	18(5.5%)	1(20.0%)	2(6.3%)
胆管合併症	70(19.3%)	63(19.3%)	1(20.0%)	6(18.8%)
腹腔内出血	14(3.9%)	9(2.8%)	1(20.0%)	4(12.5%)
腹膜炎				
腹腔内膿瘍	13(3.6%)	11(3.4%)	1(20.0%)	1(3.1%)
消化管穿孔	13(3.6%)	10(3.1%)	0(0.0%)	3(9.4%)
腸閉塞				
早期(≦術後90日)	4(1.1%)	4(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
晚期(>術後90日)	12(3.3%)	11(3.4%)	0(0.0%)	1(3.1%)
腹壁癒痕ヘルニア	7(1.9%)	6(1.8%)	1(20.0%)	0(0.0%)
術後再開腹手術				
早期(≦術後90日)	51(14.0%)	41(12.6%)	3(60.0%)	7(21.9%)
晚期(>術後90日)	30(8.3%)	26(8.0%)	1(20.0%)	3(9.4%)

*** 内科的合併症(2001-2021年)**

内科的合併症	全体(n=363)	小児生体(n=326)	小児脳死(n=5)	成人生体(n=32)
急性拒絶反応	1594(43.8%)	135(41.4%)	4(80.0%)	20(62.5%)
難治性拒絶反応	41(11.3%)	34(10.4%)	1(20.0%)	6(18.8%)
サイトメガロウイルス感染症	148(40.8%)	126(38.7%)	5(100.0%)	17(53.1%)
移植後リンパ増殖性疾患	6(1.7%)	6(1.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ニューモシスチス肺炎	4(1.1%)	3(0.9%)	0(0.0%)	1(3.1%)
血球貪食症候群	4(1.1%)	3(0.9%)	0(0.0%)	1(3.1%)

紹介医の皆様へ

「胆道閉鎖症外来」のお知らせ

平素より自治医科大学に患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

自治医科大学では2001年5月より肝移植を開始し、2021年12月までに326例の小児に対して生体肝移植を行ってきました。このうち胆道閉鎖症の患者さんは229例(70%)を占めます。また、50例以上の自己肝温存症例をフォローアップしています。当科における胆道閉鎖症患者さんの数は移植に関わらず日本有数となっております。

胆道閉鎖症は乳児期に肝不全にて肝移植が必要になる患者さんと、幼児期～成人期に代償性～非代償性肝硬変にて肝移植が必要になる患者さん、自己肝を温存できる患者さんに分けられます。胆道閉鎖症患者さんの20年自己肝生存率は48%とされていますが、今後も長期生存の患者さんが増えていくため、成人期に肝移植が必要になる患者さんが増えていくことが予想され、最近では青年期～成人期症例の紹介が増えており、当科ではこれまで7例の成人胆道閉鎖症患者さんに対して肝移植を行っています(ここ数年2-3名/年の紹介)。また、成人期自己肝温存の患者さんにおける胆道癌の合併や成人疾患の併発などが問題になっています。一方で自己肝が温存できる患者さんの見極めも重要であります。このように胆道閉鎖症の患者さんは生涯に渡って高い専門性を持って診療を継続していく必要がありますが、多くの患者さんは小児施設で継続フォローされているのが現状です。小児疾患では現在トランジションが問題になっており、小児科・小児外科から消化器内科・消化器外科へのシームレスな移行が求められておりますが、青年期～成人期の胆道閉鎖症患者さんに関しても同様です。

自治医科大学では小児肝移植を開始後、2017年1月より成人肝移植を開始し、また、2019年4月より移植外科と消化器・一般外科が統合しました。これまでの小児肝移植の実績に加えて成人肝移植や肝胆膵外科を網羅することができるようになったため、どの年代の胆道閉鎖症の患者さんにおいてもシームレスに診療できる体制が整いました。そこで2019年10月より、自治医科大学附属病院にて「胆道閉鎖症外来」を新設致しました。具体的には毎週月曜日14時からとちぎ子ども医療センターにて外来を行っています。

紹介医の皆様におかれましては、トランジションを考えている症例や将来的な移植適応を心配する症例など、胆道閉鎖症診療に関わることでしたらなんでも結構ですので、お気軽にご連絡、ご相談頂ければと思います。

2022年2月

自治医科大学附属病院移植外科科長 佐久間康成
成人肝移植責任者 大西康晴
小児肝移植責任者 眞田幸弘

当科への患者様の紹介方法

①まず下記窓口にご連絡してください。

・移植外科医

電話:0285-58-7069(医局)または 0285-44-2111(代表)

FAX:0285-58-7069(消化器一般移植外科)

眞田幸弘 E-mail:yuki371@jichi.ac.jp または 大西康晴 E-mail:onishiy@jichi.ac.jp

・移植コーディネーター

電話:0285-58-7465(移植コーディネーター直通外線)

FAX:0285-44-5973(移植・再生医療センター)

吉田幸世 E-mail:ishokuco@jichi.ac.jp

②移植コーディネーターを介して受診の日程調整を行って頂きます。

・事前(受診日まで)に紹介状(検査データ、手術記録(あれば))を

上記 E-mail あるいは FAX でお送りください。

画像データは患者様にお渡し頂き、受診時に持参してもらっても結構です。

・当院初診の場合、事前 ID の作成許可をご家族に取ってください。

③来院時の下記注意事項をご家族にお伝えください。

・当院の附属病院外来受付に声を掛けて頂く。

・当日は①お持ちの医療券、②保険証、③お薬手帳を持参して頂く。

・説明を聞きたいというご親族の方がいる場合は同伴して頂く。

・来院にあたり宿泊を予定している場合は、構内住宅の御利用についてご案内致します。

移植コーディネーターにご相談ください。

ご不明な点、ご確認事項などありましたら、遠慮なく移植コーディネーターまでご連絡頂ければと思います。また、ご家族からも質問事項等ありましたら、遠慮なく移植コーディネーターまで連絡するようお願い頂ければと思います。

肝移植患者様のための構内住宅貸出案内

移植手術を受けるご家族のために大学構内にある教職員住宅の一部を貸し出しています。

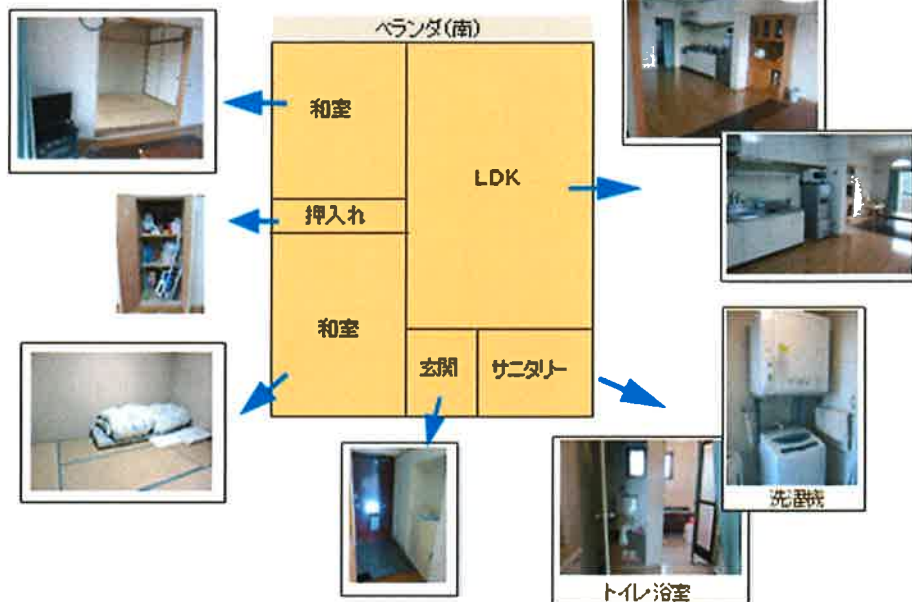
(2週間以上の長期利用が条件)

設備・備品

クーラー2台・コタツ(コタツ布団無)もしくはホットカーペット(部屋によって違い有)・テーブル・椅子・調理用具・テレビ・冷蔵庫・洗濯機・掃除機・ドライヤー・電子レンジ・炊飯器・ガステーブル・食器棚・食器一式・電気ポット・寝具各部屋2組・自転車各部屋1台 等

部屋見取り図

2LDK ※卸屋により左右の配置が逆



料金

1泊 1,500円

(光熱水費・寝具料金含)

駐車場:各部屋1台分有



自治医科大学 移植チーム



左より 大柿薬剤師、移植コーディネーター吉田、平田医師、大西医師、大友薬剤師、佐久間医師、眞田医師、移植コーディネーター関谷、岡田医師、堀内医師、大豆生田医師、海老原、小林